

外国人の人権

外国人であるというだけで、特別扱いや決めつけた考え方をしていませんか？

世界にはいろいろな国や地域があり、民族や宗教、言葉、生活習慣など、それぞれに異なる文化的背景を持っています。最近、国際化が進み、外国の人をよく見かけるようになりましたが、私たちは、異なる民族や国について正しく理解しているでしょうか。古い考え方や価値観で閉鎖的な対応を取ってしまったということはありませんか。

外国人の人権課題

外国人であるというだけで、不当な扱いをうける場合があります。例えば、アパートの入居や店舗への入店、施設の利用などを断られるケースや就業を断られたり、就業した後、待遇面で差別されたりするケースなどがあります。外国人には、言葉の壁があり、細かい内容や正確な内容を伝達しにくいという問題で医療面や防災面で不安を抱えてし

外国人の人権を守るための取り組み

国際的には、人種差別撤廃条約が国連総会で採択され、日本も1995年に批准しました。日本国内においては、外国人であっても、社会保障、国民健康保険等の社会保障の対象になるなどの措置がとられています。また、外国籍の子どもも日本の学校に就学することができます。本県においては、くまもと国際化総合指針(2009年)が定められ、コミュニケーション支援(日本語などの学習機会の提供)、生活支援教育、福祉などの支援)、多文化共生の理解促進(地域社会に対する意識啓

発などの3つの施策が取り組まれています。

わたしたちができること

今後国際化が進み、諸外国との交流が増していくでしょう。先入観を持つことなく、まずは心を開いて交流し相手を知ることが大切です。もし、自分が外国で生活することになったら…と考えて行動することで相手の立場や思いを受け止めることができるのではないのでしょうか。

その国の文化や習慣について理解を深めると共に、相手のことをよく知り、違いを認め合い、地域の一員として共に生きる社会をつくることに今求められています。一人一人幸せになりたいという願いは万国共通です。

益城町でも全ての人々が安心して快適に暮らせる開かれた社会をつくっていきましょう。

町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

356

中世期鬼門への恐怖は強く京都の東北には比叡山延暦寺があるように、武士たちも自分の城塞や屋敷を守るために、自分が帰依する神仏を鬼門に祀りました。

同時に5寸×3寸(15cm×10cm)大の自分の念持仏を鎧の下に秘めて出陣しました。足利尊氏の念持仏は地藏尊と伝えられますが、木山氏の念持仏は観音でありそれを裏付ける民話が益城町に残ります。戦国時代、福田校区の南地区の竹山の中で毎晩何物か光り輝くものがあり、恐れた村人の訴えで赤井城主木山氏は家臣の江藤氏に探らせ、持ち帰ったのは自分の念持仏の観音であり、それはかつて多々良が浜の戦で敗れた時、身代わりとして自分を救った観音であったと分かりました。感激した城主は南に大きな寺を建てて祀りました(以下略)

「南の観音さん」の由来です。

(益城町の民話・松野國策著) このように常楽寺の本尊千手観世音の信仰は武士階級の信仰を集めました。庶民にとり次の功德もあると信じられました。

⑨ 虎狼蟻蛇疾走辺方(虎狼蟻蛇疾走辺方絵図) Ⅱ 猛く恐ろしい虎狼、毒蛇に会った時、観音に祈れば悪獣悪虫は遠く去り、身は安全でその難は消えてしまう。

⑩ 雲雷電雨應時消散(雲雷電雨應時消散絵図) Ⅱ 雨あられ降り注ぎ、かみなりが鳴り轟き、稲光がひかり、天地も震い裂けるほどでも観音の力を念ずれば、それらも消え失せ怖れは消えてなくなるであろう。

この⑨⑩は一般庶民も曝される災厄で当時、中世未開の山野では猛獣毒蛇の被害も多く、また不鋳の密林の雷雨の災害も甚大だったと思われる。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策



南地区にある観音さん